

相手にわかりやすく伝えるためのプレゼンテーション能力育成の取り組み

～ライティングパネル活用の効果を、実践を通して検証する～

三重県津市立高茶屋小学校

〒514-0819
三重県津市高茶屋3-1-1

<http://ptc10.jrscomware.com/takachaya/>

1. はじめに

本校は、平成19年度から『わかる喜び 確かな学び ～算数科を通して～』を研修主題として設定し取り組みを行ってきた。わかる喜びやできたという成就感をもっと感じ取らせることにより、学ぶ意欲を高め、自尊感情を高めることができるのではないかという考えのもと、研修を積み重ねてきた。具体物の活用や体験的な活動、ICT機器の活用、少人数指導・TT指導などによって、一定の成果をあげることができた。しかし、平成23年度の研修の成果と課題を確認し合う中で、児童の実態から、次のような課題が出された。

- ①コミュニケーション能力が不足している。
- ②仲間とのつながりが希薄である。
- ③学力が定着していない児童が多い。
- ④学習規律、学習習慣がしっかり身につけていない。

以上のことから、本年度の研修主題『学び合い、伝え合い、教え合い、～3つのグループを柱にした学力向上～』をめざして、学校教育目標『あいのある 笑顔あふれる 元気な高茶屋小学校』にせまるために、「伝え合うカグループ」「基礎学力グループ」「授業づくりグループ」の3つのグループで研修を進めた。

2. 研究の目的

平成21年度、「学校ICT環境整備事業」により普通教室に50型の大型デジタルテレビが導入された。その有効活用を図るため、本校では、最優先して書画カメラの備品購入を進め、平成23年度中にすべての普通教室に実物投影機を設置した。

各学級で実物投影機の活用が進むにつれて、教科書をクリアファイルで挟みマーカーペンでポイントや答えを書いたり、図・表・絵の横に白紙を置いてポイントを書いたりと様々な工夫がされるようになった。さらに、児童が発表するときは、実物投影機で自分のノートを大型ディスプレイに映し出し指で指しながら、自分の考えを説明する場面も増えてきた。そこで、「子ども一人ひとりに自ら学ぶ意欲や思考力、自分の考えを自らの言葉で表現できる力を育成することは、考えを伝え合い、関わりあう力を培っていくことができるだろう」と仮説を立て、そのためには、各教科の中で、「話し方」「聴き方」「まとめ方」の力を育成することが重要であると考えた。

さらに、獲得した知識をもとに思考しながら大型ディスプレイに書き込むことで、課題内容をまとめ、相手にわかりやすく伝える能力をさらに身につけさせることができると考え、研究主題を「相手にわかり

やすく伝えるためのプレゼンテーション能力育成」と設定した。そこで、板書（黒板）使用時のメリットとICT活用のメリットを双方から考え、子どもたちのプレゼンテーション能力を向上するための道具として大型ディスプレイに書き込めるライティングパネル及び外付け電子黒板を設置し、以下のような方法で実践研究を進めた。

3. 研究の方法

本校では、テーマ実現のために次のことに取り組んだ。

- (1) 日常の授業の中で伝え合う場面を設定
- (2) わかる授業の工夫
- (3) 研究助成推進委員会
- (4) 授業の中で効果的にICTを活用するための学習会
- (5) 実践交流
- (6) 教育実践への評価

4. 研究の内容と経過

- (1) 日常の授業の中で伝え合う場面を設定していく。

伝え合う力を高めるためには、多様な伝え合うスキルが必要である。伝え合う手段としてICT機器を活用することは、スキルを身につけるために非常に有効な手段である。大型ディスプレイ、書画カメラ、外付け電子黒板、ライティングパネル、DS教室等、子どもの意欲を高めたり、視覚的に訴えたりすることでわかりやすい授業の工夫ができる。

①各教科において、双方向の「話す」「聴く」「まとめる」活動を取り入れることの効果

子どもが話したり、聞いたり、まとめたりするためにはスキルが必要であり、全校で、「学びのルール」をもとに、話す・聴くときに大切にしたい3つのポイントを教室に提示している。さらに、研修部の中の1つのグループである「伝え合うカグループ」からは、「意欲的に伝え合う態度を育てるために、聴く力の定着をめざす」と今年度の目標を掲げ、その中の手立ての1つに聴くために必要なこととして、聴く力の設定をした。（表1）

聴く力を育むために、それぞれの学年で身につけさせたい姿勢・技能・つけたい力の設定（表1）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
姿勢	前を見て	話す人を見て	話す人の目を見て	話す人の目を見て	話す人の目を見てうなずきながら	話す人の目を見てうなずきながら
技能	静かに聴く	言葉を受け止める	言葉を受け止め話し手の気持ちになる	話の中心を受け止める	話の中心を受け止め要点をメモする	話の中心をメモにとり自分の考えと比べて聴く
つけたい力	大事なことをおとさないように聴く能力を育てる		話の中心に気をつけて、聴く能力を育てる		相手の意図をつかみながら聴く能力を育てる。	

②ペア学習、グループ学習等の学び合う場面を取り入れることの効果

グループで話し合い意見をまとめる場面の目的は、自分の考えを整理、確認するとともに、違う考えに触れさせ、それらをもとにひとつにまとめる作業を通して、自分たちの大事にしたいことやこだわりをわかりやすくまとめ、みんなに共有することである。そのために、聴き合い活動を中心にし、話し合いをしたり、話し合った内容をまとめたりする取り組みを行った。

主体を聴き手におくことで、聴き合い活動が始まり、聴くことを大切に指導してきた。今までは、1つの学習問題や課題に対してグループの中で考えを出し合い、考えたものをまとめ、学級全体の場で発表させていた。発表するとき、グループの中で発言力のある子の考えが多く見られた。しかし、聴き合い活動では、一人ひとりの考えを肯定的に受け入れることで、一人ひとりの考えが大切にされ、全員の考えが尊重される。

この聴き合い活動は、友達の考えを肯定的に受け入れるため、今まで自身が持てず発表にためらいがちなお子でも発表することができてきた。そして、その考えが、どのようにして考えたのかを尋ねることで、話し手の考えを理解し、お互いを認め合う姿が養われた。

グループ活動で大切にしたい3つのポイント

話し手の方を見て最後まで聴く

肯定的に確かめを行い、考えを聴き出す

自分の考えを見直す

グループ活動の様子



(2) わかる授業の工夫

①子どもの考えを明確にさせるための課題や発問の工夫と組み合わせ

- ・児童や指導者がノートや教科書を提示するICT活用が増えることで、児童の学習意欲が高まり、次第に話し方や聞き方の技能を身につける様子がみられた。
- ・学習効果を高める一斉学習、ペア・グループ学習、個別学習を適切に取り入れるなど、それぞれの学習活動にあった学習形態の工夫ができるようになってきた。

②ICT機器の活用と板書の効果的な活用方法、又は組み合わせる方法

書画カメラを使った授業を活用した授業をしてほしいと考えている児童は89%で、その理由が「授業がわかりやすいから」「発表がしやすいから」と回答している。さらに、環境整備がICT機器の環境が整っていることで、日頃から書画カメラやライティングパネル、外付け電子黒板、電子黒板ユニットを日々の実践で活用している教員はほとんどである。そこで、教員が活用したICT機器の効果的な活用方法をアンケート結果からまとめた。

- ・書画カメラ・ライティングパネルで子どもがプレゼンテーションし、同時に教師が黒板に板書することで、子どもの思考を前面に残すことができる。
- ・主に説明の時は、書画カメラ、ライティングパネルを使う。板書は、ノートへ書く内容として使

い方を分けると子どもがどこをノートに書けばよいかわかる。

- ・授業の最後まで提示しておきたいことについては板書に書くが、答え合わせやノート指導などで残しておかなくても良いものについてはライティングパネルや書画カメラを使う。
- ・板書したものは授業の最後まで残せる形にして、書画カメラやライティングパネルで動きのある指導ができるとよい。
- ・書画カメラで映したものを全員で見ながら黒板に要点などをまとめることができる。
- ・楽譜は大きく書いて黒板に貼り（アナログ）書画カメラやパソコンで楽譜の演奏見本を提示することも効果的な学習ができるようになる。
- ・図や表、グラフへの書き込みは、書画カメラとクリアファイルを使うと分かりやすい。かった。
- ・まとめの板書も特に大切な部分を書画カメラで撮影しておけば、単元の復習、学期のまとめ、年間を通じての復習などに利用できそう。
- ・前時の板書を書画カメラで撮っておき、本時の始めに復習、思い出しに使える。
- ・問題を書画カメラに映して、その解き方を板書する。または、その逆もあり得る。
- ・教科書や教材を撮影しておいて書き込むと準備が簡単で共有できる。
- ・拡大や色ペンの多用による視覚的な効果。児童自身が学習を進めているんだという意欲の向上。

（3）研究助成推進委員会

6名の推進委員を中心に、情報交換や共通理解を行った。

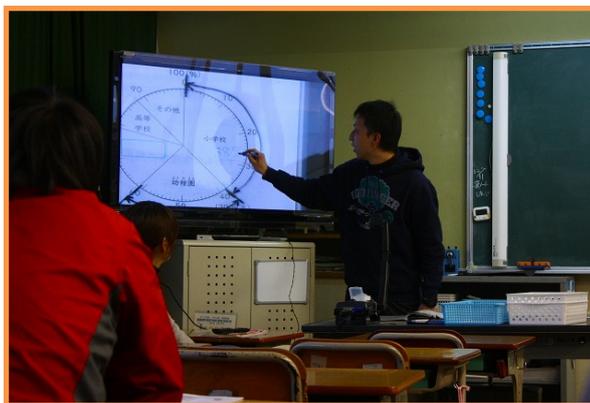
- 第1回 5月31日（木）
- 第2回 7月4日（水）
- 第3回 9月4日（火）
- 第4回 11月14日（水）
- 第5回 2月1日（金）

（4）授業の中で効果的にICT機器を活用するための学習会

第1回～第8回までの学習会は16時20分～30分までの10分間で実践報告会を行った。また、校内研修では、教職員37名が参加し、内12名が大型ディスプレイ・書画カメラ・ライティングパネル・電子黒板ユニットを活用した模擬授業をし、さらに「鉛筆の正しい持ち方」のグループワークをし、大型ディスプレイ・書画カメラを活用した模擬授業を行った。

第8回ICT学習会の実践報告

- 第1回 6月15日（金）
- 第2回 6月29日（金）
- 校内研修 7月25日（水）
- 第3回 9月14日（金）
- 第4回 9月28日（金）
- 第5回 10月12日（金）
- 第6回 10月26日（金）
- 第7回 11月30日（金）
- 第8回 12月14日（金）



(5) 実践交流

実践1

<どのような活用の仕方をしたか>

- ・書画カメラで教科書の挿し絵を拡大して映す。
- ・ライティングパネルに書き込む。

<ここがポイント>

- ・説明しながらその場で分割の線をライティングパネルに書き込むことで、児童の考え方や考えた順番がわかりやすくなる。



実践2

<どのような活用の仕方をしたか>

- ・書画カメラで教科書の挿し絵を拡大して映す。
- ・ペア発表で、一人が考えを発表し、もう一人が発表者の考えを、外付け電子黒板を活用して書き込む。

<ここがポイント>

- ・発表者と地図上に通った道を書く子どもに役割分担することで、聞いている子どもたちも発表者のお話を想像しながら通った道を確認することができる。



(6) 教育実践への評価

年2回行っている学校自己評価の「ICT機器を活用したわかりやすい魅力的な授業を行っている」の項目では、全体満足度は95%以上を得ている。一人ひとり教員が、「わかりやすい授業に努めていたり、工夫したりしながら取り組んでいる。さらに、地域とのつながりの中で、地域、保護者に授業公開する中で、本校のICT機器を活用した授業を保護者だけでなく、地域の方にも発信することで、学校教育への信頼を高めることができる」と考える。

5. 研究成果と今後の課題

(1) 研究の成果

① 日常の授業の中で伝え合う場面を設定

- ・各教科において、双方向の「話す」「聴く」「まとめる」活動を取り入れることで、自分の考えや相手の考えを伝え合うこと場面設定や、ノートに自分の考えをまとめさせる活動を意識するようになった。
- ・ペア学習・グループ学習といった学び合う場面を取り入れることで、児童一人ひとりの活動量が増え、伝え合うことの良さや楽しさを感じ、伝え合うことへの意欲に高まりがみられた。
- ・子ども同士がかかわり合うことができるペア学習・グループ学習では、わからない子どもがわかるようになり、わかる子どもも教えることでより深く理解するようになり、基本となる子ども同士の

人間関係をよくすることにも力を入れることができる。

- ・話し合いにおける技能指導を行ったことにより、児童が相手の立場や気持ちを尊重する姿がみられた。

②わかる授業の工夫

- ・児童や指導者がノートや教科書を提示するICT活用が増えることで、児童の学習意欲が高まり、次第に話し方や聞き方の技能を身につける様子がみられた。
- ・学習効果を高める一斉学習、ペア・グループ学習、個別学習を適切に取り入れるなど、それぞれの学習活動にあった学習形態の工夫ができるようになってきた。

③ICT機器活用の工夫

- ・記述方法を見せたり、他の児童の手本になるような児童の記述を大きく表示したりすると効果的。
- ・教科書の挿絵を映しておくことで、書き込みもでき、時間が節約できる。
- ・思考の順序通りに書き込みながら前でプレゼンテーションする。
- ・子どもは、見ている教科書と一緒に書き込みがされるのでわかりやすい。
- ・書き込みをしながら、自分の考えをより整理できるようになってきた。
- ・自分の考え方、説明が他の児童に認められた時、自信を持つことができた。
- ・書き込みをしながら説明をすることに戸惑いながらも、自分で話の内容やポイントを整理して話そうとしているように感じられる。
- ・一人の子の考えを共有するときに、視覚的に確認することができわかりやすい。
- ・教員が授業のねらいを示したり、学習課題への興味・関心を高めたり、学習内容をわかりやすく説明したりするために、ICT機器を活用できてきた。
- ・提示した映像などを指し示しながら発問、指示や説明の工夫ができるようになってきた。
- ・模擬授業や学習会をする中で、一人では得られない気づきを得ることができた。

また、以下のようなことに気をつけながらICT機器活用の工夫を行った。

何を	・どのような資料を	・どのような教材を	
いつ	・導入	・展開	・まとめ
どのような場面で	・全体で話し合う場面	・個別活動の場面	・グループ活動の場面
どのような目的で	・興味、関心を高めるため	・問題に気づかせるため	
	・より理解を深めさせるため	・深く考えさせるため	
	・学習をふり返るため		
どのように	・大きく拡大して	・クイズとして	・書き込んで
	・発表の道具として	・動画を視聴させて	・操作を見せて

(2) 今後の課題

相手にわかりやすく伝えるためのプレゼンテーション能力を高めるためには、話す・聞くためのスキルを育成することに大きな意義がある。よりよい話し合いをするためには、技能を育成しなければ伝え合う力は高まらない。そのためには、伝え合いを高めるための子どもにつけたい技能をまとめ、

これらの技能を子どもがしっかりと身につけることができるよう、きめ細やかな指導を行い、伝える力を高めることができるよう迫りたい。

さらに、プレゼンテーション能力を高めるためには、伝え合いをした後、その伝え合いがどうだったかを子ども自身が振り返ることが次の学びへとつながる。子ども自身が伝え合いをしっかりと振り返ることができる場を設定し、自分で評価意識を持たせるようにしたい。

- ・他教科における「話すこと・聞くこと」の基本的な話し方、聞き方の指導の工夫
- ・相手にわかりやすく伝え合う力を高めるための場の設定を考えた授業改善
- ・児童の考えを明確にさせるための課題や発問の工夫と組み合わせ
- ・書画カメラで映したり、書き込んだりするのほどの場面なのか

4. おわりに

外付け電子黒板やライティングパネルを使用し大型ディスプレイに書き込みながら、それを相手にわかりやすく伝える学習活動の機会を増やしていくことは、児童のプレゼンテーション能力を伸ばすだけでなく、学習内容の理解を深化させることにもつなげることができた。今後もICT機器の活用により、児童の更なるプレゼンテーション能力の向上を目指すとともに、「わかる授業」の充実に努めていきたい。